

JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

ペルーにおける
スタートアップ・エコシステム

2022年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外調査部／リマ事務所

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。本レポートは、株式会社ブラジル・ベンチャー・キャピタルに委託して作成しました。

〈目次〉

1. ペルーのスタートアップ・エコシステムの概要.....	2
(1) 政府、自治体、政府関連機関.....	3
(2) 大学、研究機関.....	4
(3) 海外政府系機関.....	5
2. スタートアップに関連規則・規制緩和の動き.....	5
3. ペルーにおけるスタートアップ企業の現状.....	6
(1) クレアナ (Crehana)	6
(2) チャスキ (Chazki)	7
(3) バスポルタル (Busportal)	7
(4) ターボデガ (Turbodega)	7
4. ペルーにおけるインキュベーター・アクセラレーター・他スタートアップ支援の現状.....	9
(1) 政府機関によるインキュベーション・アクセラレーション・コワーキング支援.....	9
(2) 大学機関のアクセラレーター.....	9
(3) 大学機関のインキュベーター.....	10
(4) 現地の民間プログラム.....	11
(5) 現地企業との国際プログラム.....	12
(6) 民間協会.....	13
5. ペルーにおけるベンチャーキャピタルの現状.....	14
(1) ペルーのベンチャーキャピタルファンド (VC)	14
(2) ペルーのスタートアップへ投資する中南米のベンチャーキャピタルファンド.....	14
(3) ペルーのコーポレートベンチャーキャピタルファンド (CVC)	15
(4) その他のベンチャー投資家・関連団体.....	16
6. ペルーにおける外資系ベンチャー企業・スタートアップ企業の成功事例.....	17
7. ペルーにおける主なスタートアップ向けイベント情報、情報媒体.....	18
(1) ペルーベンチャーキャピタルカンファレンス (PVCC)	18
(2) リマフィンテックフォーラム.....	18
(3) エンデバー・インスパイア (Endeavor Inspire)	19
(4) ペルー・デジタル・サミット (Peru Digital Summit)	19
(5) スタートアップ・フェスト (Startup Peru Fest)	19
(6) リマ・スタートアップ・ファウンダー101 (Lima Startup Founder 101)	19
(7) ペルー・テック (Peru Tech)	19

はじめに

ペルーのスタートアップ・エコシステムにおいては、スタートアップ向けの資金不足のため、100 万ドル以上の調達をするスタートアップ企業の割合が 2.6%と中南米地域の平均を下回っている。また、まだユニコーン企業（企業価値が 10 億ドル以上の未上場）が存在せず、過去 10 年間のイグジット件数は 12 件程度であった。しかし、ここ数年はペルーのスタートアップへのベンチャー投資が急激に増加しており、投資総額は 2019 年から前年比の倍以上の伸びを続けている。

本レポートでは、ペルーにおけるスタートアップ・エコシステム、具体的には、スタートアップ関連規則や規制緩和の動き、ペルーを代表するスタートアップ企業やスタートアップ企業を取り巻く産官学の現状、同国におけるベンチャーキャピタル、スタートアップ関連イベントなどを紹介する。

本レポートが皆様の一助となれば幸いである。

2022 年 2 月
日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外調査部
リマ事務所

1. ペルーのスタートアップ・エコシステムの概要

ペルーは南米大陸の中程に位置し、西は太平洋に面し、ブラジル、コロンビア、チリを含む5か国と隣接している。GDP規模では中南米6位、一人当たりGDPはブラジルとほぼ同じ程度である。

経済成長面では、過去10年間は安定的に成長し、2010年から2020年の成長率は38%、前年比の年平均成長率は4.8%に至った。同期間に唯一マイナス成長を記録したのは、パンデミックの影響を受けた2020年(約-10%)。一方、ロックダウン措置緩和や公共・民間投資計画の実行により、2021年前半には20.9%成長に達し、経済活動はパンデミック以前の成長水準まで回復した¹。

資源輸出を中心としたペルーの経済は、GDP全体の15%を占める鉱業が最も重要な産業である²。近年、主な貿易相手国である中国をはじめ、それに次ぐ米国及びブラジル、欧州連合(EU)における資源価格の上昇がペルーの経済成長を支えてきた。自由貿易協定に関しては、中国、米国、欧州連合(EU)及び日本(2011年)と締結済みである。

パンデミックにもかかわらず、インフレ率、金利及び為替レートといった経済指標は比較的安定している(2020年のインフレ率は2%)。しかしその一方で、2021年上半に行われた総選挙の際には、新政権の経済政策の方向性に対する懸念と不安が生じ、ペルーの通貨が対ドルで11.2%下落、インフレ率は6.4%へ高まった。

政治と経済活動は首都リマに集中しつつ、農産物の輸出が地方の発展を支えている。尚、リマ市にはペルーの全人口の3割以上が居住している為、大規模成長を目指すスタートアップにとって魅力的な市場と見なされており、隣国のスタートアップがリマ市へ進出する事例も見られる。

ペルー共和国の基礎データ	
総人口	3300万人(世界41位)
首都	リマ
リマ市の人口	1080万人(中南米都市6位)
GDP	2040億ドル(中南米5位)
一人当たりGDP	6,200ドル(世界105位)
言語	スペイン語

一方、中南米の他国と比較すると、ペルーのスタートアップへのベンチャー投資額はまだまだ少なく、2020年に中南米全体の1%に過ぎなかった(ブラジル62%、コロンビア9%、チリ3%)。GDP比のベンチャー投資額に関しても、ペルーは0.02%に留まっている(ブラジル0.25%、コロンビア0.18%)³。

ペルーにおけるスタートアップ向けの資金不足のため、100万ドル以上の調達をするスタートアップ企業の割合が2.6%と中南米地域の平均を下回る。まだユニコーン企業(企業価値が10億

¹ 世界銀行 (<https://www.worldbank.org/>)

² 中南米開発銀行(CAF) <https://www.caf.com/en/>

³ IDB LATAM Venture Capital Report 2020

ドル以上の未上場)が存在せず、過去10年間のイグジット件数は12件程度であった。

しかし、ここ数年はペルーのスタートアップへのベンチャー投資が急激に増加しており、投資総額は2019年から前年比の倍以上の伸びを続けている。

スタートアップへのベンチャー投資総額		
2019年	2020年	2021年(8月時点)
2100万ドル	4600万ドル	8800万ドル

2020年末、ペルーベンチャーキャピタル協会(PECAP)に登録しているスタートアップへの民間投資総額は、4600万ドルに達した。そのうち、40%は教育系、27%はEコマース系、18%はフィンテック、7%は人事ソリューション、8%はその他の分野のスタートアップが投資を受けた。

2021年前半は、ペルーのスタートアップに合計1800万ドルの投資が行われ、その投資件数は2020年1月～12月の全体投資件数とほぼ同じ水準であった。平均投資額は約100万ドルで、多くの投資額(62%)及び投資件数(17件)はシードラウンドに行われた。

2021年、シリコンバレーに拠点を置くYコンビネーターのアクセラレーションプログラムに選定された企業を中心に、100万ドルを超えたシードラウンドはペルーでもいくつか見られた。2021年後半にエドテック企業である「クレアナ(Crehana)」が大規模投資ラウンドで7000万ドルを調達したため、2021年末までペルースタートアップへの投資総額は1億ドルに達すると見込まれている⁴。

ペルーのように小規模の国内ベンチャーキャピタル市場においては、投資案件が1件でも市場全体に大きく影響を与えることも少なくない。一例として、上記クレアナは2020年に1800万ドル(全体の37%)を調達したが、2021年8月時点でその投資額が市場全体のほぼ80%を占めている。

多くの投資案件は海外の投資ファンド(2020年に76%、2021年に83%)が主体である一方、過去2年間は国内投資家による投資額も著しく上昇している。

2021年に連邦政府はベンチャーキャピタル産業の成長を牽引するため、ペルー開発銀行(COFIDE)を通じて国内投資家向けの1700万ドル規模のファンドオブファンズを創成。また、多くの公立・私立大学がインキュベーションとアクセラレーションプログラムを提供しており、国内スタートアップ市場における重大な役割を担っている。

(1) 政府、自治体、政府関連機関

近年、ペルー政府は単独又は他機関と共同で、ベンチャーキャピタル産業の更なる成長を促進するため、スタートアップ市場への支援を目的とした国内イノベーションファンドの一部を活用するなど様々な政策を実施している。以下に一部紹介する。

- ・輸出観光促進庁：プロムペルー(PromPerú)： 海外直接投資(FDI)及び貿易促進を

⁴ <https://forbes.pe/tecnologia/2021-09-26/startups-en-peru-inversion-crece-80-en-el-primer-semestre-del-ano/>

目標とする行政機関。輸出企業向けビジネスフォーラムを定期的開催し、最近では中小零細企業を繋げるデジタルプラットフォーム「ペルーマーケットプレイス」、及び国際市場及びビジネス機会の案件検索を可能とする輸出データシステム「[exportemos.pe](https://gestion.pe)」を開発した。

・プロ・イノベート (ProInnovate) : 大企業、スタートアップの起業家、関係機関等でのネットワーク構築を通じて、イノベーション及びビジネス生産性向上を促進する行政機関。「スタートアップ・ペルー」アクセラレーションプログラム及びその他のイベントを実行する。

・科学技術・技術革新国家審査会 (CONCYTEC) : 行政機関、大学、企業、国際機関（主に世界銀行）と連携した様々なプログラムと企画を通じて、イノベーションと開発を促進する機関である。様々な研究及び知識集約型事業を提供するほか、科学技術イノベーション企画とスタートアップ向け融資を実行する「プロ科学 (Pro Ciencia)」プログラムを運営。

・ペルー開発銀行 (COFIDE) : 2020年12月に「革新的起業家向けベンチャーキャピタル基金 (FCEI)」の規制が承認され、1700万ドル規模の開発基金を創成。その目的は、シード期のペルースタートアップや、ペルーに拠点を置く、若しくは進出予定の海外スタートアップへ出資するベンチャーファンド (VC) 創設の促進である。

(2) 大学、研究機関

ペルーにおけるイノベーション分野の弱点は、研究機関と産業界の連携不足があげられる。2019年にグローバル・イノベーション・インデックス (GII) が発表した大学と産業界の連携ランキングでは、ペルーは129ヶ国のうち100位に記録された⁵。

また、2019年、主要大学が運営する研究所・技術開発機関におけるネットワーク構築のガイドラインが「科学技術・技術革新国家審査会 (CONCYTEC)」に承認されたにもかかわらず、2021年時点ではまだ実施されていない。結果として、政府の支援を受ける研究機関はほぼ存在しないが、現地での代表的な私立機関を以下に紹介する。

・ESAN 経営大学イノベーションセンター (Escuela de Administracion de Negocios)
ESAN 経営大学の科学・技術・イノベーション部門であり、民間企業とスタートアップの協業推進を目標として、オープンイノベーション・コーポレートイノベーションイベントを開催し、同プログラムに参加するビジネスマンによる投資促進を行っている。国内及びチリ、コロンビア、メキシコからのスタートアップ、並びに米州開発銀行 (IDB)、チリ輸出促進局 (ProChile) 及びスイス発のアクセラレーター「Seedstars」と連携。加え

⁵ <https://gestion.pe/blog/el-arte-de-emprender-y-fallar/2020/01/parques-cientificos-tecnologicos.html/>

て、海外スタートアップへのソフトランディング、グローバル技術スカウト及びマッチングイベントの開催といった起業家向けサービスを提供している。

・ イカ・イノベーション・テクノロジー・センター (CITE Agroindustrial ICA)⁶

イカ地域の農業分野での技術リサーチセンターとしてビジネス関連の各種コースや研修プログラム、調査サービスを提供。フィールドワーカーと企業のマッチングも行う。

(3) 海外政府系機関

海外の国際的な政府機関が複数ペルーでの起業促進のために資金提供を含む活動を行っている。以下に一部紹介する。

・ 国際金融公社のスタートアップ・カタリスト・プログラム (IFC Startup Catalyst)

2016年より実施されている世界銀行傘下の国際金融公社は、発展途上国のインキュベーター、アクセラレーター、シードファンド等を支援する機関である。平均投資額は100万～200万ドル、現地起業家によるサポート、グローバル投資家とのネットワーク構築、現地のベンチャー・キャピタル・エコシステムの開発などの支援を行う。ヘルスケア系（eHealth）、環境系（cleantech）、Eコマース系、教育系（edtech）及び金融系（fintech）などのスタートアップに直接投資している。

・ 太平洋同盟 (Alianza del Pacifico)

メキシコ、チリ、コロンビア及びペルーによる貿易自由化促進の枠組み。主な目標は加盟国間の貿易推進、海外直接投資誘致、観光及びスタートアップと企業の国際化。

・ LAB 4+ 太平洋同盟の起業・イノベーション会議 (LAB 4+ Entrepreneurship and Innovation Forum of the AP)

太平洋同盟における加盟国間の起業、イノベーション及び貿易推進活動の一環として、海外投資家と商機を探るフォーラム。

・ 米州開発銀行 (IDB) 及び IDB Lab

IDB Lab は米州開発銀行のイノベーション・ラボ。本銀行の「インパクト・多様性・包括性」という方針に沿った、中南米のスタートアップ及びVCファンド向け融資を提供。

2. スタートアップに関連規則・規制緩和の動き

2021年、イノベーションを使った金融数理モデルにおける「サンドボックス制度」が承認さ

⁶ <https://www.citeagroindustrial.com.pe/es/index.php>

れ、2022年2月より実施されている。本制度により、経済財務省の認定を受けた金融業界の企業が、まだ規制が整っていない新たな金融モデルを短期間に実用出来るようになる。今後、フィンテックの新たな金融モデル及びサービスの提供が期待される。⁷

ただし、上記サンドボックス制度以外、スタートアップの事業やイノベーションビジネスを推進させる目立った優遇措置はなく、全てのスタートアップ企業は一般の企業と同等の規制に従わざるを得ないのが現状。所得税減税及び確定申告の簡素化といった中小零細企業向け優遇税措置を、通常、スタートアップ企業も活用している。

国内又は海外のベンチャー投資の誘致制度や規制緩和の方針も存在しないものの、海外直接投資における規制は比較して開放的で海外投資ファンドによる投資及び国内投資会社設立に関する上限はない。

3. ペルーにおけるスタートアップ企業の現状

ペルーではまだこれからスタートアップへの資金流入が増えていく過程にあると言えるであろう。パンデミック期間内を含め、年々にスタートアップへの投資額が2倍以上の水準で増加している為、今後数年に大規模取引の実現が期待される。以下、未上場ながら大型の資金調達を行ったペルーのスタートアップをいくつか紹介する。

(1) クレアナ (Crehana) ⁸

創業年：2015年
WEB：<https://www.crehana.com/>
住所：Lima, Peru
代表者：ディエゴ・オルチェゼ・ディアス (Diego Olcese Diaz)
従業員数：約600人

サービス概要： 企業及びスキルアップを目指す人向けの教育プラットフォーム。中南米地域で最も急成長した教育プラットフォームの一つとして、様々なオンライン講座を提供。

起業からの経緯： 2015年に前身であるスタートアップフリクン (Flikn) の創業者はワイラのアクセラレーションプログラムの指導を受け、戦略の再計画を通じて社名を「クレアナ」へ変更。その時点でユーザー数は既に7万5000人に達した。翌年、英国のベンチャーファンドより出資を受けメキシコへ事業展開。2021年8月にジェネラル・アトランティック (General Atlantic) がリードしたシリーズB⁹の7000万ドルは中南米エドテックにおいて最大の投資ラウンドとなり¹⁰、クレアナが総額9400万ドルの資金調達に成功した。また、2020年に全体ベンチャー投資の36%、2021年に80%を受け、ベンチャー投資額ベースでペルーの最大のスタートア

⁷ <https://www.sbs.gob.pe/noticia/detallenoticia/idnoticia/2567>

⁸ <https://endeavor.org.pe/blog/emprendedores/crehana-se-convierte-en-la-edtech-con-mayor-financiamiento-en-serie-b-de-latam/>

⁹ 投資家が企業に対して投資をする段階。投資家により出資先企業の投資方針が企業の売上規模、顧客数、企業価値等で決まっていることが多く、その段階ごとに投資家側の市場セグメントが形成される。サービスをスタートした直後の段階をシードステージ、収益が上がり始めビジネスとして収益があること、今後の成長期待が高まった段階での最初の本格的な投資ラウンドをシリーズAと呼び、以降追加の出資を受けるたびにシリーズB、シリーズCとアルファベットの並び順で何度目の投資ラウンド化を表現するのが業界の通例だが、個々の資金調達ラウンドを数値等で表す明確な定義はない。

¹⁰ <https://endeavor.org.pe/blog/emprendedores/crehana-se-convierte-en-la-edtech-con-mayor-financiamiento-en-serie-b-de-latam/>

<https://latamlist.com/crehana-raises-largest-series-b-for-edtech-in-latin-america/>

ップである。

(2) チャスキ (Chazki)

創業年：2015年
WEB：<https://chazki.com/>
住所：Lima, Peru
代表者：ゴンサロ・ベガソ(Gonzalo Begazo)
従業員数：非公表

サービス概要： チャスキは都市圏物流及びラストマイル配送事業の向上を提供するプラットフォームである。配送物のディストリビューション及び注文状況のリアルタイム追跡の提供により、配送事業の高速化とユーザー体験の向上が可能となる。

起業からの経緯： E コマース産業が成長しはじめた 2015 年に創業。ワイラのアクセラレーションプログラムに参加した後、「スタートアップ・ペルー」プログラムの補助金を受け、世界経済フォーラム (WEF) に中南米スタートアップトップ 50 社ランキングに選定された。2019 年、米州開発銀行及びペルー生産省から投資を受け、現在、5 か国 27 都市で展開しており、中南米のスペイン語圏の国では最大のラストマイル系スタートアップとして、3 回の投資ラウンドで 790 万ドルの資金調達に成功。最後に受けた投資ラウンドは 2021 年 4 月にコロンビアへの事業展開を目的としたシリーズ A。2020 年、チリのトドバ (TodoVa) を買収して同国の市場へ進出した。

(3) バスポータル (Busportal)

創業年：2012年
WEB：<https://www.redbus.pe/>
住所：Lima, Peru
代表者：ローマン・ヴォッグ(Romain Voog)及びキャロル・リバウド (Carol Riboud)
従業員数：非公開

サービス概要： バスチケット販売プラットフォーム。バス運業者のウェブサイトにオンライン決済を含む総合販売プラットフォームという B2B ソリューションなどを提供。

起業からの経緯： 2012 年、外国人留学生 2 名がペルー旅行の際に考えたアイデアを基に創業したスタートアップ。個人資金で計画を立て、2014 年にワイラのアクセラレーションプログラムによりスケールアップ (事業規模拡大) を可能にした補助金を受けた。2016 年には印レッドバス (RedBus) がバスポータルを買収してコロンビアとチリへの事業展開を支え、は 2018 年にシリーズ B で最後の投資を受け、投資ラウンド計 4 度で総額 710 万ドルを調達。

(4) ターボデガ (Turbodega)

創業年：2018年
WEB：<https://www.turbodega.com/>
住所：Lima, Peru
代表者：パオロ・メルガレジョ (Paolo Melgarejo)
従業員数：非公開

サービス概要： 小規模食材店舗向けサプライチェーンのデジタル化を実施する管理ソフト。デジタル化することにより、全体のエコシステムを人工知能型総合サプライチェーンへ変更させる。

起業からの経緯： 2018年に創業。ペルー及びメキシコに拠点を設置し、ペプシコ（PepsiCo）とパートナーシップを結んだことにより小規模食材店を E コマース企業の商品ピックアップスポットにすることを可能にした。2021年11月にシードラウンドで300万ドルを受け、投資ラウンド計5度で総額450万ドルの調達調達に成功。¹¹

¹¹ <https://forbes.pe/editors-pick/2021-11-11/turbodega-levanta-us3-millones-para-crecer-en-peru-y-expandirse-en-mexico/>

4. ペルーにおけるインキュベーター・アクセラレーター・他スタートアップ支援の現状

インキュベーションとアクセラレーションプログラムの大半は大学機関に運営されており、普段は所属大学の専門分野に特化している（例：農業大はアグリテックへのインキュベーションを提供）。全ての大学は起業・イノベーション分野に投資する義務が定められているため、多くの大学は卒業生以外の起業家向けにもプログラムを開催。従って、大学機関はスタートアップのエコシステムにおいて重要なプレイヤーであり、その他の独立機関または国際機関と協同企画を実施するケースも珍しくない。

(1) 政府機関によるインキュベーション・アクセラレーション・コワーキング支援

1 スタートアップペループログラム (Startup Peru)

ペルー政府が支援する国内主要プログラムとして、過去に補助金 160 件以上を提供した実績がある。2013 年よりプロイノバテ (ProInnovate) が運営しているペルー発のアクセラレーションプログラムで、初期段階のスタートアップ向けに 1 万ドル、アクセラレーションステージのスタートアップへ 3 万 5000 ドルの支援金のほか、自己資金で運営されるインキュベーターとアクセラレーターへ融資を提供。

2 アセラ・ペルー (Acelera Peru) : 「500 Startups」 + 「イノベート・ペルー」

シリコンバレーに本拠地を置くアクセラレーター・PE ファンド「500 Startups」は、ペルースタートアップのエコシステムへ多大な影響を与えるために、ペルー政府が運営するイノベーションプログラム「イノベート・ペルー」とのパートナーシップを発表した。

2021 年 4 月 29 日、500 Startups はフルリモート形式のアセラ・ペループログラムを開始し、参加企業のうち 50 社を 2 週間の「グロースキャンプ」に招致。グロースキャンプ参加企業のうち 20 社へ更に 6 週間にわたるプログラミング・研修を行った後、投資家と業界関係者向けの「デジタル・デモ・デイ」で発表する機会を提供した。¹²

3 オープンイノベーションコンテスト

様々な分野におけるデジタルソリューションの開発を推進するため、2019 年よりプロ・イノバテが開催するスタートアップのビジネスプランコンテストである。

(2) 大学機関のアクセラレーター

1 UTEC ventures

ペルーの名門工科大学「UTEC」所属の初期段階スタートアップ向け投資・アクセラレータープログラム。女性起業家アクセラレーションプログラムやペルーベンチャーキャピタル委員会などの名門イベントを開催したことにより、国内エコシステムの主要プレイヤーとなった。初投資家として平均 2 万 5000 ドルでシードステージのスタートアップへ投資する。

2 エンプレンデ・アップ (EmprendeUP)

太平洋大学 (Universidad del Pacifico) の起業・イノベーションセンターで、初期段階

¹² <https://ecosystems.500.co/es/aceleraperu>

からの起業家へプレインキュベーション・インキュベーション・アクセラレーションプログラムを提供するほか、エンジェル投資家のネットワーク、法人投資プログラム、ソフトランディングを運営。本大学のアクセラレーションプログラムはフィンテックに焦点を置いて、初期段階からの支援と法人投資家との人脈で知られており、年に2回開催される。

3 サンイグナチオデロヨラ大学 (USIL) ベンチャーズ

イノベーション・技術・サステナビリティ推進のインキュベーション・アクセラレーションプログラム。欧州・中南米におけるスペイン通信大手テレフォニカの「オープンフューチャー (Open Future)」ネットワークのメンバーである。また、太平洋同盟加盟国 (チリ・コロンビア・メキシコ・ペルー) のビジネス・アクセラレーターネットワークである「アクセラップ (AcelerAP)」にも参加している。

(3) 大学機関のインキュベーター

ペルーのスタートアップ・エコシステムの興味深い点として首都に集中せず、各地方で起業を促進するべくエコシステム作りが積極的に行われていることがあげられる。各地方のエコシステムの中核になるのは地元の大学によるインキュベーションプログラムである。また、大学が中心ではあるものの関連機関・民間と広く連携している点も特徴的である。

全国的なプログラム

1 アプエスタ・ポル・TI コンテスト (Apuesta por Ti contest)¹³

ペルー工科大学 (UTP) が主催する同大学学生向けのビジネスプランコンテスト。ペルー工科大学はリマに5拠点、その他各地に6拠点の計11拠点でペルー全土をカバーしている。入賞者に3000ドルの助成金をビジネスプラン実行のために提供する。

リマ地域でのプログラム

2 StartUPC

ペルー応用科学大学 (UPC) のインキュベーター。アイデアのアクセラレーション・インキュベーション・ソフトランディングプログラムを通じて、ビジネスイノベーションに加えて、社会課題を解決するイノベーションと研究開発 (R&D) に付加価値を与えることに特化している。

3 インキュバグリア (Incubagria)

2016年に設立された、国家農業大学 (Universidad Nacional Agraria) のビジネスインキュベーターである。アグリテック、バイオテック、エコビジネス、研究及びイノベーション推進のスタートアップのリードインキュベーターになることを目指している。設立以来、プレインキュベーション・インキュベーションプログラム、ネットワーク、メンタリング、融資、コワーキングの提供を通じて200社以上を支援した。起業家向けシードマネーとして、本機関のプログラムは25万ドルを調達した実績がある。

4 スタートアップ UNI (StartupUNI)

ペルー国立工科大学 (UNI) が主催するテクノロジー関連のスタートアップに特化したインキュベーションプログラム。

¹³ <https://www.utp.edu.pe/estudiantes/apuestaporti>

5 1551 インキュベーター

公立のサンマルコス大学によるインキュベーションプログラム。これまでに322社のスタートアップ企業を支援してきた実績がある。1551 インキュベーターは InBia というインキュベーター兼アクセラレーター、起業家の国際的なネットワークの一員にもなっている。

アレキパ地域でのプログラム

6 カマン・ビジネス・インキュベーター(Kaman Business Incubator)

サンパブロ・カトリック大学(UCSP)がペルー南部地域でのスタートアップ・エコシステムを構築するべく行っているプログラム。プレインキュベーション、インキュベーション、アクセラレーションと段階を分けたプログラムとコワーキングスペースを幅広く提供する。リマ地域外では最大規模のプログラムでプロ・イノバテ、スイス EP と提携している。

その他にも各種研究機関や民間企業向けのオープン・トレーニングサービスやエンブレンド UP(リマのパシフィコ大学のアクセラレーター)と共同でインバスタートというスタートアップ投資に関する短期間のコースも提供している。

フニン地域でのプログラム

7 ウィチャイ・インキュベーター(Wichay Incubator)

ウアンカジョ市のコンチネンタル大学とイノバテ・ペルーとともにペルー中央の山間地域でのエコシステム発展に寄与すべく活動している。様々なインキュベーションプログラムをスタートアップのフェーズに応じて提供し、起業家の資金調達を支援するなど、年間を通して複数のスタートアップイベントを主催している。

ピウラ地域でのプログラム

8 HubUDEP

ピウラ大学のインキュベーター。ペルー北部の起業エコシステムを繋ぎ、農業、漁業、生物多様性、サービス分野の起業家向け技術とイノベーションを推進。

タクナ地域でのプログラム

9 UPTincuba

タクナ私立大学及び政府プログラム「プロ・イノバ (Pro Innova)」が共同に設置した、ペルー南部タクナ地区の初インキュベーターである。タクナ地区と南部地方の起業家向けプレインキュベーション及びインキュベーションプログラムを提供。

(4) 現地の民間プログラム

1 アセソランデス (Asesorandes)

2013年、コンサル及び市場開発に特化した金融ファームとして創業。2014年より社会インパクト事業に取り組み、現地エコシステムを支援する様々なプログラムを運営してきた。同プログラムにおいてアクセラレートされたスタートアップ対象のエンジェル投資家ネットワークを構築するほか、会社設立サービス、ソフトランディング及び資金調達コンサルを提供。

フィンテック、持続可能アパレル、海洋経済、バイオテック、アグリテック及びヘルスケア産業など社会インパクトのある幅広い分野においてシードステージ・初期段階のベンチャー起業向けアクセラレーションを提供。加えて、各スタートアップへ平均2万5000～5万ドルの投資が可能。

2 リキッド・ベンチャー・スタジオ (Liquid Venture Studio)

拡大可能なビジネスモデルを持つスタートアップ向け価値提案 (VP) 及び製品・サービス設計のテイラーメイド強化プログラムを提供。アクセラレーション、プレアクセラレーション、ビルディングなど3種類のプログラムを提供。飲食業界、ヘルスケア、E コマース、フィンテック分野におけるシードステージのスタートアップが対象であり、各スタートアップに平均3万～5万ドルを投資。

3 クナン (Kunan) プログラム

ペルーの大手企業が協賛するスタートアップ大会。シードマネーとして4万ドルなど、社会インパクトのある起業企画 (2020年に6社) へ補助金を提供。

4 ダンパー・チャレンジ (Danper Challenge)

ペルー北部のラ・リベルタ地域の農業関連企業ダンパーが提供するオープンイノベーションコンテスト。プロ・イノバテも協賛し、テレフォニカグループのCVCであるワイラ (Wayra) やトウルキージョ市の商工会議所とも連携し、アグテックスタートアップの振興を目的に実施している。コンテストのトップ10社には資金提供も行う。

(5) 現地企業との国際プログラム

1 エンデバー (Endeavor)

エンデバーは、メンター・人材・市場・資金ネットワークを通じて社会インパクトの起業家を支援する非営利団体 (NPO) である。投資家ネットワーク及び自身のベンチャーファンド「Endeavor Catalyst」を通じて、クレアナ、ラッピ、コーナーショップやエバンクスなど中南米の名門スタートアップに投資。

振興市場を中心に、世界中のスタートアップがアクセラレーションの対象。1億3400万ドル規模の共同投資ファンドを運営し、投資ラウンドの10%まで各スタートアップに200万ドルを上限に投資可能。エンデバーの起業家であれば、既にリード投資家のある500万ドル以上調達段階のプロジェクトにおいて共同投資ファンドの融資プログラムに申請ができる。

2 シードスターズ (Seedstars)¹⁴

2012年にスイスの起業家チームにより設立。現在、振興市場支援のグローバルコミュニティとして、「シードスターズ世界大会 (Seedstars World Competition)」、シードスペースハブ及び様々なアクセラレーションプログラムを開催。中南米、アフリカ、中東、東欧州、中央・東南アジアにおいて30か国以上に投資した実績を持つ。

幅広い起業家ネットワーク、並びにポートフォリオ企業間のノウハウ移転とシナジー推進を提供しており、初投資額は5万～10万ドルで、最終的に50万ドルまで投資可能。

3 スイス EP (Swiss EP)

ペルーとスイス間協力協定の一環として、スイス政府が支援する起業家プログラム。

¹⁴ <https://www.seedstars.com/>

2015 年より、新興国市場のスタートアップ支援を通じて対象国の雇用創出を目指し、ペルーにおいては、スタートアップ、インキュベーター、エンジェル投資家及びマイクロベンチャーファンドに投資可能な 200 万ドルの予算を持つ。現在アルバニア、ボスニアヘルツェゴビナ、北マケドニア、セルビア、コソボ、ペルー及びベトナムの 7 か国で活動を行う。

4 産業向けスタートアップ (Startups for Industry) ¹⁵

独バイエルン州政府が支援、ペルーシード投資・ベンチャーキャピタル協会 (PECAP) 及びプロムペルーが運営するプログラム。投資家を含むバイエルン州起業エコシステムとの連携により、中南米スタートアップの成長加速化を目指す。

(6) 民間協会

1 ペルーシード投資・ベンチャーキャピタル協会 (PECAP)

イノベーションと技術系スタートアップへの資金供給の拡大が目標。中南米の他の団体及びベンチャーキャピタル協会との共同イベントを通じて、プレイヤー同士のネットワーク拡大及びスタートアップ・現地ファンドに資本市場へのアクセスを促進。

2 デジタル起業家協会 (ASEDI)

2020 年に、ペルーの代表的なスタートアップ数社からの起業家 (デジタル起業家) グループが設立。非営利団体 (NPO) として、現時点で様々な業界より 200 名以上のメンバーが加盟済み。デジタル起業家以外に、アドバイザー、パートナー企業、インキュベーター及びアクセラレーターのネットワークを持つ。ペルー国のデジタル化への貢献を目指し、ペルー政府の様々なプログラムと連携しながら活動も行う。

3 フィンテック・ペルー (Fintech Peru) ¹⁶

フィンテック業界の起業家により設立・支援。民間と公共のプレイヤーと連携しながら、イノベーションを生み出す堅固な金融・技術エコシステムの創出と金融商品・サービス開発の推進を目指す。また、フィンテック業界におけるグローバルと現地の最新トレンドをテーマにするウェビナーと会議を定期的で開催している。

4 ペルー起業家協会 (ASEP)

2014 年に設立され、現在のメンバー数はペルー全国の 1 万 5000 を超える。8 万人以上のメンバーを誇る中南米起業家協会 (ASELA) の加盟団体として、メンタリング・ワークショップ・講座・起業家ネットワークを有する教育プラットフォームを通じて、新しい起業家の支援を行っている。

¹⁵ <https://www.pecap.pe/startup-for-industry>

¹⁶ <https://fintechperu.com/>

5. ペルーにおけるベンチャーキャピタルの現状

多くの中南米ファンドは、アンデス地域若しくはブラジルを除く中南米など、投資活動の地域に限られているのが現状である。国際投資ファンドがペルースタートアップ投資の主なプレイヤーであり、2021 年前半に全体の投資額 62%を占めた。そのほか、エンジェル投資が目立ち、そのうちの 57%は海外エンジェルが投資を行った。

(1) ペルーのベンチャーキャピタルファンド (VC)

1 サルカントイ・ベンチャーズ Salkantay Ventures

アメリカのカプリアベンチャーズの国際ネットワーク (Capria International Network) メンバーであり、中南米のスペイン語圏で事業拡大を目指すアンデス地域 (コロンビア・エクアドル・ペルー) の企業を中心に投資する、初期段階のスタートアップ向けのファンド。高いインパクトのあるセクターや技術を活用するソリューションへ、10 万~100 万ドルの幅のある投資活動を行っている。

2 インカ・ベンチャーズ (Inca Ventures)

アンデス地域における初期段階のフィンテックを中心としたスタートアップへ、10 万~20 万ドルを投資。2019 年、ペルーの民間銀行 BCP が買収した決済プラットフォーム「クッキ (Culqi)」に投資した実績も持つ。

3 ウイニペグ・キャピタル (Winnipeg Capital)

4 つのビジネスユニット (コーポレートファイナンス、資産運用、資本市場、マルチ・ファミリーオフィス) のうち、資産運用部においてベンチャーキャピタルを含む投資事業体の運用を行っている。分野にこだわらず、スペイン語圏の中南米諸国の初期段階スタートアップに平均 2 万 3000 を投資。

4 AVP

初期段階向け投資ファンドで、シードステージ及び太平洋同盟諸国 (メキシコ、コロンビア、ペルー及びチリ) に事業展開が可能な技術系ベンチャーに投資。主な分野はフィンテック、教育、コンシューマー・リテール、ヘルスケア、農業などで、平均 5 万ドルの投資を提供。過去には上記の決済プラットフォーム「クッキ (Culqi)」に投資。

(2) ペルーのスタートアップへ投資する中南米のベンチャーキャピタルファンド

1 アラヤ・キャピタル・パートナーズ (Alaya Capital Partners)

元々はアルゼンチンのベンチャーファンドで、現在はアルゼンチン、チリ及びシリコンバレーに拠点を置き、10 年間以上に渡り中南米企業へ投資してきた実績を持つ。代表的な投資先は 123seguros (保険事業)、Betterfly (保険事業) 及び Moova (物流事業)。分野にこだわらず、事業拡大を目指すデジタル型企业へ 25 万~60 万ドルの投資を行っている。最近では中南米スタートアップ向けの 1 億ドル規模のファンドを創成した。¹⁷

2 アンプリフィカ・キャピタル (Amplifica Capital)

女性のインクルージョン (包括性) 推進を重視する、メキシコにおける初のベンチャーファンド。女性に社会参加の機会を増やし、女性の生活に良いインパクトをもたらす投資を目指している。社員に多様性がある初期段階 (プレシード・シード・シリーズ A) の中南

¹⁷ <https://www.iproup.com/innovacion/28564-alaya-capital-invertira-otros-usd-100-m-en-startups-de-la-region>

米企業に 2 万 5000～25 万ドル幅の投資を行っている。

- 3 フェン・ベンチャーズ (Fen Ventures)

初期段階のスタートアップに特化するベンチャーファンドとして、中南米での事業拡大を目指す様々な業界のテック企業を支援。
- 4 フランボー・キャピタル (Flambeau Capital)

アルゼンチンのファンドで、スペイン語圏の中南米地域内で事業拡大を目指す成長段階のスタートアップへ投資。投資金額は 30 万～500 万ドル。
- 5 アライブ (ALIVE : Acumen Latam Impact Ventures)

ペルー、コロンビア及び中米を中心に、農業・教育・エネルギーセクターにおいて社会インパクトの高い初期段階企業が主な投資先。100 万～300 万ドル幅の投資額で、ポートフォリオ企業にクレアナ（教育）及びフェニックスフード（農業）が含まれる。
- 6 ザ・イールド・ラブ (The Yield Lab)

中南米におけるアグリテック分野の初期段階スタートアップに特化したアルゼンチンの投資ファンド。投資額は 10 万～20 万ドル。
- 7 NXTP ベンチャーズ (NXTP Ventures)

中南米の初期段階スタートアップに投資するアルゼンチンのベンチャーファンド。分野にこだわらず、B2B ソリューションの企業へ 50 万～200 万ドル幅の投資を行う。
- 8 ブラジル・ベンチャー・キャピタル (Brazil Venture Capital)

日系のファンドであるブラジル・ベンチャー・キャピタルはペルーに専属スタッフを配置している。これまでのペルーでの投資実績はアグリテック、デリバリー専門のダークキッチン事業のスタートアップがある。

(3) ペルーのコーポレートベンチャーキャピタルファンド (CVC)

多くの CVC は、事業会社と同業界のスタートアップ、若しくは自社の既存顧客と新顧客向けソリューションを提供できる企業に投資する。最近、ペルー大手企業とコングロマリットの一部は、独自若しくは現地アクセラレーターと協同で、自社のプログラムを開始している。

プログラム名	事業会社	業界・投資先分野	平均投資額
Wayra	テレフォニカグループ	初期段階、通信、E コマース、B2B	5 万ドル
Krealo	クレジコップグループ（金融機関）	フィンテック投資先国ペルー、コロンビア、チリ	50 万～1000 万ドル
Digital Factory	スコシアバンク	銀行内 DX、フィンテック、人事、UX、アナリティクス	

Open Talent	BBVA 銀行	地域内のフィンテック	10 万ドル
Nodica	ロシュ・ラボ (Roche Labs)	ヘルステック	
EdVentures	ホックシールド・マイニング (Hochschild Mining)	エドテック	
La Mezcladora	コングロマリット 4 社のジョイントベンチャー	建設、プロップテック	

(4) その他のベンチャー投資家・関連団体

エンジェル投資家ネットワーク：

1 エンプレンドアップ (Emprende UP)

太平洋大学が支援する団体であり、既に事業開始したスタートアップを探る。平均投資額は 5 万ドルで、太平洋同盟（メキシコ、コロンビア、ペルー、チリ）の企業に特化。マイナー投資家が多く、エクイティのみに投資。

2 PAD エンジェル投資家ネットワーク

ピウラ大学が支援する団体であり、起業家への資金、ノウハウ、ネットワークを共有できる投資家とスタートアップを繋ぐ。分野によらず、ペルースタートアップのみに投資。投資額は 2 万 5000～5 万ドル。

3 ザ・ボード (The Board)

エンジェル投資家 25 名が創成した団体で、私的委員会が運営。同委員会はディール・フロー（案件の流れ）及び候補投資家へ投資機会の紹介を担当する。投資ラウンドに参加できる投資家は 5% のフィーを支払い、中南米、スペイン或いは米国に拠点を置く初期段階のスタートアップに投資。分野にこだわらず、平均投資額は 5 万～150 万ドル。

6. ペルーにおける外資系ベンチャー企業・スタートアップ企業の成功事例

中南米エコシステムの繋がりは強く、起業家、ベンチャーファンド及びアクセラレーターが簡単に他国へ事業展開ができる。太平洋同盟の規制は海外企業の展開を容易にするため、ペルーに進出するスタートアップの出身国はチリとコロンビアが多くを占める。

ウーバー（Uber）及びラッピ（Rappi）といったシェアリングエコノミー系のスタートアップを中心に、ペルーに拠点を置くグローバルスタートアップは雇用創出を促進し、現地エコシステムを後押ししている。

中南米スタートアップの大半は早い段階で国際化する傾向にあるが、その理由は事業拡張を狙うと同時に、大手ベンチャーファンド（主に米ファンド）にアピールするためでもある。中南米において第2位の市場規模を誇る米国と強い関係も持つメキシコへの展開を望むスタートアップが多く、グローバルスタートアップと同様に、ペルーやその他の中南米諸国よりもメキシコの市場を優先する。

ペルーにおける外資系スタートアップの成功事例を、以下、紹介する。¹⁸

企業名	出身国	業界・分野	調達金額 ¹⁹
ラッピ（Rappi）	コロンビア	ラストマイル配達	22億ドル
ラッピは、ペルーにおける最大の配達アプリであり、2021年時点でユーザー数は200万人を超える。ラッピのダークストア（倉庫）から10分以内に配送をするターボ（Turbo）サービスや、現地の銀行と協同で新たなフィンテックソリューションも展開している。 ²⁰			
メルカドリブレ（Mercado Libre）	アルゼンチン	Eコマース	20億ドル
ペルーと中南米地域の最大のEコマースプラットフォームで、同地域のユーザー数は3億7800万人以上。Eコマース以外、企業向け決済サービスも提供しており、最近ではクリプト（暗号資産）スタートアップ2社を買収し、中南米におけるクリプト市場でリーダーになることを目指している。 ²¹			
デスペガール（Despegar）	アルゼンチン	Eコマース	5億5100万ドル
中南米の最大のOTA（旅行予約プラットフォーム）であり、航空チケット検索、ホテルやレンタカーの予約やその他の接客サービスなどを提供。2019年時点のユーザー数は1800万人以上。			
ウーバー（Uber）	米国	都市モビリティ	250億ドル

¹⁸ <https://gestion.pe/economia/mas-de-10-fintech-internacionales-ya-operan-en-peru-noticia/?ref=gesr>

¹⁹ 出所：Crunchbase データベース

²⁰ <https://www.df.cl/noticias/empresas/retail/rappi-hara-fuerte-expansion-de-tiendas-oscuras-en-peru-ecuador-y-chile/2022-01-17/204031.html>

²¹ <https://www.peru-retail.com/mercado-libre-compra-mercado-bitcoin-y-paxos-para-potenciar-su-negocio-de-criptomonedas/>

2016年に進出し、ユーザー数500万人以上を有する主要ライドシェアアプリ。現在は中国ディディ(DiDi)、米インドライバー(InDriver)及び西カビファイ(Cabify)と激しい競争を繰り広げる。市場は細分化されている上、ペルーでは人気のあるインフォーマルなタクシーサービスにも直面すべき。 ²²			
ペディドス・ヤ (Pedidos Ya)	ウルグアイ	ラストマイル配達	3億2800ドル
ラッピの主な競合他社であるラストマイル配達アプリ。自社のダークストア(倉庫)ネットワークを活用し、最近ではラッピと同様に高速配達サービスを展開しはじめた。 ²³			
コーナーショップ (Cornershop)	チリ	Eコマース	3100万ドル
チリのデジタルスーパーマーケットで、2021年に4億5900万ドルでウーバーに売却。中南米の数か国に事業展開している。			
クッシュキ (Kushki)	エクアドル	フィンテック・決済	9400万ドル
クッシュキは顧客へEコマース、Mコマース(モバイルコマース)、実店舗向けの総合決済プラットフォームとオムニチャネルソリューションを提供。ソフトバンクがリードしたシリーズB投資ラウンドで、8600万ドル以上の資金調達に成功。 ²⁴			

7. ペルーにおける主なスタートアップ向けイベント情報、情報媒体

(1) ペルーベンチャーキャピタルカンファレンス (PVCC)²⁵

ペルースタートアップエコシステムの主なイベント。ペルーベンチャーキャピタル協会(PECAP)及び私立工科大学「UTEC」が年に1回共催。ペルーの主要スタートアップの紹介、スタートアップ業界の最新トレンドや投資家と起業家を繋ぐ「デモ・デイ」の開催などが行われる。

(2) リマフィンテックフォーラム²⁶

太平洋大学のイノベーションセンターであるエンプレンドアップ(Emprende Up)及びフィンテック・ペルー協会が協賛。2017年より毎年開催され、1週間にわたる日程で、ペルーにおける起業・イノベーションの最新トレンドのプレゼンやパネルディスカッションなどが行われる。ゲストスピーカーは市場主要プレイヤーの中から選りすぐられる。

²² <https://pressperu.com/uber-registra-100-mil-nuevos-usuarios-en-peru-desde-el-inicio-de-la-pandemia/>

²³ <https://www.infomarketing.pe/marketing/noticias/pedidosya-usuarios-accederan-a-promociones-y-descuentos-exclusivos-en-comercios-afiliados/>

²⁴ <https://pressperu.com/la-fintech-kushki-alcanza-la-mas-alta-valoracion-en-una-serie-b-en-la-historia-de-latam-usd-600-millones-2/>

²⁵ <https://www.pecap.pe/pvcc21>

²⁶ <https://limafintechforum.com/>

(3) エンデバー・インスパイア (Endeavor Inspire) ²⁷

年間イベント。エンデバーのスケールアップ（事業拡張）プログラムに参加する起業家のピッチ（プレゼン発表）、その他のセミナーや講演などが行われる。

(4) ペルー・デジタル・サミット (Peru Digital Summit)

2020年に開始された、行政機関「プロ・イノベート」が支援するデジタル起業の年間イベント。

(5) スタートアップ・フェスト (Startup Peru Fest)

ペルー私立カトリック大学 (PUCP) の工学部 OB 会により開催されるバーチャルイベント。(有名で) 成功したペルーのスタートアップを集め、夫々の経験が共有される場を生み出している。

(6) リマ・スタートアップ・ファウンダー101 (Lima Startup Founder 101) ²⁸

5000人以上のメンバーを有するオンラインコミュニティのミートアップグループ。未経験或いは経験のある起業家へ、フリートーク、ウェビナー、ネットワーキングイベントを提供する。互いに知り合うチャンスを作り、ディスカッションとコラボレーションを通じて新たなスタートアップの創業と現地エコシステムの発展を目指す。

(7) ペルー・テック (Peru Tech) ²⁹

2011年より開始され、ペルースタートアップにおける最大のミートアップグループとしてメンバー9000人を有し、ニューヨーク・テック・ミートアップコミュニティの正式メンバーでもある。毎月、全国の様々な都市の私立・公共機関で開催されており、国内と国際プロジェクトの紹介及びネットワーキングセッションが実施される。

²⁷ <https://endeavor.org.pe/event/evento-mayo-2021/>

²⁸ <https://www.meetup.com/es/Lima-Startup-Founder-101/>

²⁹ <https://www.meetup.com/es/PeruTech/>

レポートをご覧いただいた後、アンケート（所要時間：約1分）にご協力ください。
<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20210072>



本レポートに関するお問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外調査部 米州課 中南米班
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
TEL：03-3582-4690
E-mail：ORB-latin@jetro.go.jp